

## 「でも…」じゃなく「デモ！」

写真上は8月3日の中日新聞である。「とりま」という言葉がわからなかったので、辞書などで調べた。とにかく「とりあえず」デモ、若い高校生たちらしいデモを見て嬉しくなった。私も「とりま」を「とりあえず」理解した。

写真下も同日の朝日新聞で、東京・渋谷でデモを行う高校生らのグループだ。主催したのは、高校生らが立ちあげた「ティーンズ ソウル」。「選挙権が18歳に下げられる中で、高校生も自分らしい言葉で意思表示したい」とSNSを通じて集まった。



昨日は95歳の水田洋先生を紹介したが、今日は17歳の高校生のメッセージを伝えたい。

『世界』9月号「読者談話室」欄トップに表題の投稿が載っていた。たまたま目にしたのだが、なかなか鋭い。投稿者は内海まなかさん(杉並区・17歳・高校生)である。何回か「デモ」を取りあげているが、ここでも紹介したい。

あまり勉強は好きじゃないけど、大学に行こうと思っていた。これでも一応、世間では「受験生」と呼ばれている。「デモに行こうよ」クラスメイトから誘われたとき、全く意味がわからなかった。-----

クラスメイトは大真面目だ。私は、デモそのものよりも彼女の真剣さに惹かれて、行ってみることにした。国会なんて、小学校の社会科見学以来だった。顔も育ちもいい特別に選ばれた人たちが、居眠りしながら難しいことを議論する場所。要する、私とは一生接点がないと思っていた。-----

考えと利益を共有する人たちの暴走が止まらず、国民の声すら聞き入れなくなった与党と、リュックひとつで生身の声をぶつけに来たたくさんの市民の、どちらに民主主義は宿っているだろうか。

行動はときに無力で、声は届かないかもしれない。だとしても、「でも……」とやらない言い訳を考えるよりは、「デモ！」の側にいたい。それは、民主主義国家に生まれた私たちの義務でもあると思うから。



(2015年8月28日)